巻 頭 言

小さいことを生かす

常務取締役　宮　﨑　俊　博

日新電機の21世紀は激動の中で明けました。業界再編の嵐の中で2001年1月、当社は独立で生きていく道を選ぶという決断をしたのです。社内の意見は真二つに分かれ、激論が繰り返されました。決断をした後も本当にこれで良かったのかと悩み、恐竜の絶滅を例に環境激変期には小動物が生き残るのだと自らを奮い立たせたこともありました。しかしあれから3年、今ではこの選択を間違いだったと思う社員はほとんどいないと思います。

日新電機は重電業界の中では小さな会社です。しかし小さいことを生かす道はあると考えています。その一つはスピードです。小さいことがそのままスピードにつながるわけではありませんが、社長から担当者までの管理階層を減らし、さらに権限委譲を進めることで当社のデシジョンのスピードは大幅に早くなっています。まだそれがお客様に意識していただけるところまで浸透していない部分もあると思いますが、それに向けて努力を続けて参ります。

小さいことのもう一つの良さは、小さな市場にも一所懸命になれることです。売上が何兆円もある会社が市場規模数十億円のセグメントに全力をあげるというのは難しいことですが、当社にとっては会社をあげて努力できる規模なのです。当社はそういう所にこそ生きる道、お客様のお役に立てる道があると考え重点化を図っています。その方向に沿って、人員削減等のスリム化を進める苦しい状況の中でも、自社の独自性を発揮できる技術や製品の研究開発には必要な投資を続けて参りました。その成果の一端がこの技報にも盛り込まれています。

これからも日新電機は他社とは一味違う会社、ニッチでもその分野では日本一、世界一の製品を提供できる会社を目指して努力して参ります。お客様のご指導、ご鞭撻、ご支援をよろしくお願い申し上げます。